

大阪府立天王寺高等学校

令和5年度 第2回 学校運営協議会 記録

日時：令和5年11月25日（土）10：00～12：00

会場：大阪府立天王寺高等学校 教室および会議室

出席者：【委員】浮邊 亜紀子、葉山 正也、平岡 昌樹、山下 由美子

【事務局】西田 恵二（校長）、内堀 晴則（教頭）、石田 智恵（事務長）、

井上 孝介（首席・SSH 主担）、川邊 茂樹（首席）、

武井 節子（指導教諭・GLHS 担当）

宮永 明典（書記）

1. 開会

2. 会長挨拶（浮邊委員）

寒くなってきたが、半袖半ズボンで長距離走をしている生徒を見て懐かしく感じた。今日のいろいろな意見を今度の教育活動に活かしてもらいたい。

3. 校長挨拶

学校ではウィズコロナの取組が浸透している一方で、インフルエンザ感染による学級閉鎖が複数クラスあったので、これからも感染症対策を続けていきたい。7月以降の学校行事では、水泳訓練、あしび山荘への林間学校、文化展示発表会、2年生修学旅行などを実施することができた。

4. 協議

(1) 本年度学校経営計画の進捗状況について

自己評価欄に現時点で数値を入れられる項目を中心に説明。数値がわかる項目については、ほぼすべての項目で目標を達成している。コロナの制限が少なくなり、海外研修などの交流も増えている。いじめアンケートは今年度より年3回実施することとなった。早期発見できるよう常にアンテナを高くしておきたい。

(2) 資料説明

・スクールポリシー案

スクールミッションをベースに、案として教育庁に提出している。学校のホームページに掲載予定。

・大阪府立天王寺高等学校概念図

GLHS の取組などを記載している。

・学校教育自己診断の結果について（昨年度との比較）

生徒分：「他校と交流の機会がある」の項目で数値が上昇しており、生野高校との交流が影響している。

「ICT 機器の活用」の項目については、クロームブックを授業で活用する教員が増えている。

「桃陰セミナーや部学習の活用」の項目は「部活動と勉強の両立」の項目と関連すると考えられるが、現1年生はコロナ禍のため中学で勉強と部活動を両立する経験が少なく、どう両立するか悩んでいるようである。

保護者分：「授業参観や学校行事への参加」の項目では、コロナによる人数制限等がなくなったことで、数値が上昇していると考えられる。

教員分：コロナ制限の変化や教員の入れ替わりもあるので、各学年や分掌で検討していきたい。

・前期授業アンケート結果について

昨年度とほぼ同様の数値である。教科ごとの平均値の変化を見ることで、教員集団としての分析にも活用していきたい。個別の記述も教員に返し、生徒に還元できるように活用している。後期も実施予定。

・GLHS の取組について

天王寺高校は10校の中でも様々な取り組みを企画する立場にあり、令和6年度からの3年間も継続することが教育委員会会議で決定した。4年ぶりの海外研修は他校の教員にも協力してもらい実施することができた。10校の枠を超えて同じ興味関心を持って取り組むことは新たな力を生み出す場面設定になっている。12月には東京・福島での研修を予定している。英語力を伸ばす取り組みとして校内で実施した Road to GL では、昨年度より参加者は減ったが生徒の満足度は高い。

・近畿大会以上の成績で表彰された生徒一覧

卓球部や山岳スキー部、競技かるた部は毎年のように近畿大会以上に出場している。剣道部は久しぶりに女子団体で近畿大会出場。ラグビー部ではU-17 日本代表に選出された生徒もいる。

(3) 質疑応答及び意見交換

委員：先生方がいろいろな工夫をされていることがうかがえる。

委員：定時退庁日というのは今まではなかったのか。

事務局：勤務時間終了時での退勤は今年度から。該当日は原則終礼をせずに放課後の活動時間を確保できるようにしている。

委員：生徒に端末が配布されたことなど、ICT化が進むことで教員は時短になっているのか。

事務局：端末があるからといって勤務時間の短縮とはならない。オンライン授業をするためには準備も増える場合がある。慣れるまでの苦労もあり、授業の中で劇的に変わっているわけではないが、徐々に新しい手法も取り入れている。

委員：生徒の携帯電話使用の実態や生徒たちがどのように思っているのか教えてほしい。

事務局：学校では携帯電話を持参した場合は電源を切って鞆に入れるよう指示している。自治会との折衝の結果、今年度から放課後に必要と認められる場合には教員の許可のもと使用を認めることになった。

生徒からは、もっと自由に使わせてほしいという意見もある一方で、規制があるからこそ他生徒との交流が深まるという意見も一定数ある。

事務局：進路指導部でのアンケートからは、勉強中にスマホを使用してしまう生徒が増えていることがわかる。家庭でルール決めている。

事務局：スマホにはリスクもある。オーストラリアでは全面禁止を打ち出した。必要だという場面以外では、きちんと人と面と向かって話をできるようになってほしい。

事務局：電源を切って鞆に入れるというのは共通テストの時も同じであり、試験中や授業中に鳴ることはほとんどない。

委員：教員相互の授業見学が多く行われ、あたりまえになっていることがすばらしい。

退学生徒が少ないことも立派である。授業第一主義という取り組みは中学校でも参考にしたい。

事務局：授業見学については、教科内でアドバイスしたり、別教科での生徒の様子を見ることで自分の授業にフィードバックすることができる。

事務局：昔は静かにさせて丁寧にわかりやすく教えることに重点を置いていたが、今は対話的、主体的ということに重点が置かれ、生徒がどれだけ前向きに学ぼうとしているかを意識している。

委員：教員の使う言葉が丁寧ですね。

事務局：ハラスメントに対する意識もあり、生徒たちは小学校からそういう環境で育ってきた。

ハラスメントについては教育庁から定期的に通達もあり、周知するようにしている。

委員：同窓生からは文理学科の他校と比較するような意見を聞くこともある。

事務局：学区制が撤廃され、生徒は府下全域から受験できるようになった。天王寺高校のカラーを全面に打ち出して、行事も含めて「ここに入りたい」と思う生徒に受験してもらいたい。

委員：土日にオープンキャンパスに行く生徒も多いようで、部活動などでもう少し高校生活を楽しんでほしいという思いもある。

事務局：以前に比べると企業や大学など、外部で経験させてもらえる選択肢が増えており、興味を持って参加する生徒が増えている。マルチタスクとして様々なことを同時に処理する力も身に付けてほしい。

委員：学校行事では必ずしも全員が同じように取り組まなくても、それぞれの得意なところで活躍できたら良いと思う。

事務局：人と違うことを嫌う風潮はあるが、それぞれの得意・不得意を周りも認められる雰囲気的大事にしてあげたい。

6. 閉会

今後の予定確認。第3回は1月20日（土）午前開催の予定。